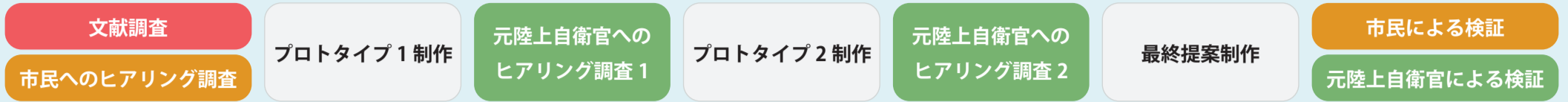


平和のためのハザードマップ

「平和が脅かされたときに命を守るサポートマップ」は、弾道ミサイル攻撃の際にとるべき避難行動が分からない市民のためのハザードマップである。

制作の流れ



文献調査で得られた要件

「被害を受ける地域について分かる」、「避難場所について分かる」、「避難のリテラシーについて分かる」、「日頃からできる備えについて分かる」というハザードマップの4要件。市民が避難の行動選択に必要な情報を示すこと。日常生活を送っている地域の被害状況を表す、手に取りやすい紙媒体で表すことで自分ごととして捉えやすくなること。

市民へのヒアリング調査で得られた要件

時間軸に沿ってその時にとるべき行動が分かるように表すこと。弾道ミサイルが発射された際には迷っている時間は無いと明確に示すこと。

元陸上自衛官へのヒアリング調査で得られた要件

市民が避難の行動選択に必要な情報を示すこと。弾道ミサイルが発射された際には迷っている時間は無いと明確に示すこと。



市民による検証の様子

提案

表面

表面デザインは、黄色を基調とした明るい配色で、視認性を高める。左側には「平和のためのハザードマップ」というタイトルと、ミサイルのイラストが配置されている。中央には「命を守る避難行動」という大きな見出しがあり、その下に「時間と情報伝達」「行動」「避難行動開始」などの主要なセクションが並ぶ。右側には「Point!!」という注意喚起の欄があり、「① 閃光・爆風を避ける」「② 体内に汚染物質を入れない」という重要なポイントが示されている。下部には「福岡市街地にミサイル落下」のシミュレーション図や「避難指示」のフローチャートが掲載されている。

裏面

裏面デザインは、黄色を基調とした明るい配色で、視認性を高める。左側には「南区マップ」として、福岡市南区の地図が掲載されている。地図には、弾道ミサイルの落下リスクが高い地域や、避難場所、避難経路などが色分けして表示されている。右側には「日常の備え」として、避難に必要な物品のリストが掲載されている。リストには「目、肌、呼吸器を守るもの」、「非常持ち出し品」、「生活する上で必要なもの」、「情報を得られるもの」、「健康を保持するもの」などのカテゴリーがあり、具体的な品名や数値が記載されている。下部には「家族の連絡先」として、氏名、生年月日、血液型、職种・学校・携帯電話の電話番号などの入力欄が設けられている。

1 ハザードマップの4要件

- ・被害を受ける地域について分かる
 - ・避難場所について分かる
 - ・避難のリテラシーについて分かる
 - ・日頃からできる備えについて分かる
- 既存の防災ハザードマップや防災ブックから導出した上記4要件をマップに取り入れた。

2 弾道ミサイル攻撃におけるハザードマップの5要件

- ・市民が避難の行動選択に必要な情報
 - ・時間軸に沿ってその時にとるべき行動
 - ・発射された際に直ちに行動すべきという意識
 - ・日常生活を送っている地域の被害状況
 - ・電気を使わず、手に取りやすい紙媒体
- 文献調査や市民へのヒアリング調査、専門家へのインタビュー調査から導出した上記5要件をマップに取り入れた。

3 自分ごととして捉えやすいデザイン

市民が具体的にイメージしやすくなるように、弾道ミサイルが発射されるとどのようなことが起こり、何をしなければならないかを詳細に示した。さらに、市民にとって身近な地域の被害シミュレーションを掲載し、危機意識を高められるように表現した。本提案では、福岡市南区に限定して制作を行った。

4 誰も傷つかない中立性

情報は事実のみを並べることで、中立性を保つことを意識して制作した。また、市民に過度な恐怖を与えないよう、タイトルを「平和のためのハザードマップ」とした。さらに、表面左下に導入文を入れ、方が一に備えることで自分と大切な人を守ることにつながることを穏やかな文体で表現した。